

概要

看護の質保証のための看護マネジメントにおける課題を抽出し、人間工学、デザイン学、環境学、情報工学などの知識、研究手法も取り入れ、学際的アプローチにより課題解決を行います。また、安全で質の高い看護を提供するためのシステム構築、および看護師のキャリア支援につながるエビデンスの構築、社会実装を目指します。

主な研究課題

- ▶ 医療従事者における感染症個人防護具着用における指針作成
- ▶ 看護師の情報取得向上を目指した医薬品情報のデザイン展開
- ▶ 看護師が抱える身体動作に関連したヘルスニーズに対する新たな支援策の開発
- ▶ 新人看護職員の離職防止にむけた教育プログラムの開発
- ▶ 静脈穿刺における初回成功率を高めるための課題抽出とプログラム開発

Q このユニットの強みを教えてください

当ユニットでは、看護学研究では、まだまだ珍しい、体温調節反応（深部温、皮膚温、発汗量など）、皮膚性状（水分量、経皮水分蒸散量、皮脂量）、身体動作解析、筋電図、視線計測、超音波エコーなど、様々な生理特性を評価する基礎知識と測定技術を有したメンバーによる研究展開、特に実験研究が可能であることが強みです。基礎的看護技術、看護職者の行動特性、医療環境の物理的評価など、客観的指標をもって看護マネジメントにおける課題を抽出します。

Q このユニットの成果が社会実装された際の未来社会、臨床へのインパクトを教えてください。

看護マネジメントで取り扱う主要テーマは、医療安全、人材育成、看護実践の質、業務の効率性・生産性、看護師の労働安全、衛生環境など多岐にわたります。安全で質の高い看護を提供するためのシステム構築、看護キャリア支援に繋がるエビデンスを構築し、社会実装をすることで、看護師が高い倫理観と誇りをもって、看護を実践できる職場環境を提供できると考えています。

ユニットリーダー

医学研究院保健学部門・教授
橋口暢子 (Nobuko Hashiguchi)

Profile

大学を卒業後、佐賀医科大学（現佐賀大学）の助手となり、その後、九州芸術工科大学で博士（芸術工学）を取得し、2012年より九州大学医学研究院に着任しました。長く、芸術工学の分野で研究に従事した経験を活かし、人間工学的研究アプローチを用い、看護技術の客観的評価、看護管理に関する研究を展開しています。



感染性個人防護具(PPE)着用指針の開発

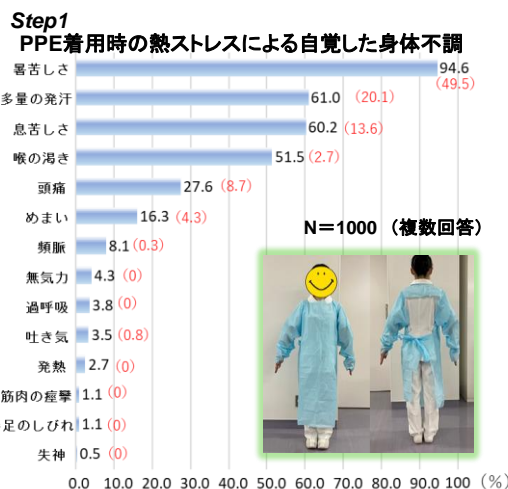
Step1
PPE着用状況と着用時の熱ストレスによる身体不調の発生状況の実態調査

Step2
臨床におけるPPE着用時の熱ストレスの発生状況—フィールド調査—

Step3
PPEの種類、看護活動量の違いによるPPE着用時の生理・心理的影響—実験研究—

看護師をPPE着用による熱ストレスから守るための指針作成

Step4
臨床における指針活用による評価・実装



問い合わせ

橋口暢子研究室

Email hashiguchi.nobuko.053@m.kyushu-u.ac.jp